科目ナンバリング	U-LAS06 20013 SJ41				
授業科目名<英訳>	現代社会と法基礎ゼミナール Introductory Seminar on Law and Contemporary Society			担当者所属職名・氏名	地球環境学舎 教授　　見平　典
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	法・政治・経済(各論)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	月4	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

現代社会では多様な問題が解決を迫られているが、法は、そのような問題の解決手段として呼び出される一方で、しばしばそうした問題を生み出す原因にもなっている。本ゼミナールでは、現代社会の諸問題に、現代法システムがどのように関わっており、また関わるべきかについて考察する。「社会を通して法を知る」とともに、「法を通して社会を知る」機会となるようにしたい。

[到達目標]

現代の法システムをめぐる諸問題について、基礎的な知識と分析の視点を修得することを目標とする。

[授業計画と内容]

【第１回】
オリエンテーションの回として、授業の進め方や、授業の準備・報告の方法について説明する。

【第２回―第１４回】
各回とも、現代の法システムに関わる問題について、事前に指名された担当者の報告後、全員が参加して議論を行う形式をとる。報告にあたり、文献があらかじめ指定される場合と、報告者の自由に委ねられる場合とがある。

取り上げる問題については、できるだけ幅広いものとすることを考えている。「現代社会と弁護士」（法曹人口、弁護士の社会的役割等）、「現代社会と裁判所」（裁判官人事、違憲審査制、司法の独立、司法による政策形成等）、「現代社会と法規制」（たばこ規制等）、「現代社会と政治」（議院内閣制のあり方等）などを予定しているが、受講生の人数や背景的知識、時事的な問題状況などに応じて変更する場合もある。

【第１５回】
フィードバック。フィードバック方法については、別途連絡する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席と参加の状況および討論への貢献度：50%、報告担当回のパフォーマンス：50%）により、評価する。 なお、４回以上の欠席は、不合格とするので注意すること。

現代社会と法基礎ゼミナール(2)へ続く↓↓↓

現代社会と法基礎ゼミナール(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各回とも、指定された文献を読んだ上で、授業に臨んで下さい。また、日頃から新聞やニュース番組等を通して、法・政治・社会に関する幅広い問題について知見を拡げるように心掛けて下さい。

[その他（オフィスアワー等）]

文系、理系を問わず、幅広い学部からの参加を歓迎します。皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部